紡紗布日誌

全

農商務省圖書
第一九一號
共一冊

太政官文庫
和書門
一一三七一號
二一函
二三冊
八架

内閣文庫
和書
一一三七一號
二三冊
一七八函
九架

内閣文庫
番號 和 11371
冊數 22 (21)
函號 178 195

風土

国立公文書館 National Archives of Japan

東西蝦夷山川地理取調記行

納紗希日誌

多楽走楼蔵板

凡例

一 納紗希ハ昔日金所ヨリ五里ヲ去テ[illegible]ヨリ根諸ヲ経テ八里ヲ村落ヲ過テ海岸ヲ通シテ陸路アリシカ今ノ路ハ山ヲ側ニ[illegible]ヲ側ニ[illegible]ヲ則チ岬ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

及ぶ所まで同名の所多し深浦を要せり閑者熟考するに中を別て
大小川澤灣岬岳所平有無岩石沼
等の字多き所を有けれ放て今疎漏多しなれども中地
一譯のうち草木鳥獸等は未考を要すること多し他日博考正海名産
圖會近刻博物志救荒志近刻蝦夷訓蒙圖彙近刻等に注名家考を徳
至るなれども中は只此書に二三を記すに近刻の三部に載るよし
志出地名を審に求るに人名の考ふるは原稿に考を熟讀すべし弘
きやうにせり
嘉延元庚申歳中秋下浣二長所金澤の門に書驗著明寫
源弘徳

戊午紀行日誌

伊勢　松浦竹四郎著

東邊扼喉之要險北門鎖鑰之樞港厚岸為第一泊津矣下畧鎮守社額裏文

港南向東西二里南北七里センポウシクリ頃と對し港口二島ありて船舶を繫ぐ空
海山のけしきよろしき此浦を作るあつけしと名付けしなり
原名を今場所の地名に成る法地の形況の等を考て土人の名服なり
本性を利用して衣を作る故に本名アツニケウレ（アツニは樺ケは皮剥ウレは剥）を樹皮樺等樹皮の類
を作るはれ樹皮なり是なくは勾芝木皮可績為布出陸川縣大明一統志草木可衣
者曰弁服績其皮者有勾芝布紅蕉布弱錫明廊港若赤雅勾芝木其皮可績

為布（粤西偶記）と云ふ何人今有所（通行屋 勤番所 制札 備米蔵 合薬蔵 船蔵 鍛冶屋 大示屋 廐 板蔵九棟 茅蔵三棟）の方に他は西の方不又サウレトマリと云ふ（船泊の意）と云ふ山海の神に奉るイナヲ（エナホ）と云ふ

[illegible]（ウリ瓜）を[illegible]又サは磐ウレは[illegible]又サ和[illegible]山地に[illegible]

[illegible]（四）[illegible]を刷り磐[illegible]の如くして天に向ひ祝の様[illegible]

地て[illegible]邦の磐[illegible]実[illegible]祝[illegible]イナホと称ス又レヤと称ス二ツ

の[illegible]実[illegible]と称イナホは楮種の称[illegible]

[illegible]て楮種の形状糞[illegible]遠（[illegible]）五穀[illegible]の[illegible]

大古の[illegible]

[illegible]又レヤと云ふは[illegible]

種と大麻の二ツは[illegible]邦[illegible]今の世[illegible]

[illegible]天地の神を[illegible]用ゆ[illegible]今の磐

[illegible]今は紙麻を用ゆ[illegible]上古の時紙麻[illegible]時[illegible]

[illegible]知[illegible]楮種[illegible]

初種[illegible]

棒（又祝儀棒[illegible]）[illegible]武江[illegible]

[illegible]夫つけて（万葉考 高左）筑波祢尓（ツクバネニ）

思吉鬼呂我尓（シキコロカヌノ）努保佐流可毋（ホセルカモ）又 安比見氐波千等世夜伊奴流伊奈乎加毋（アヒミテハチトセヤイヌルイナヲカモ）

安礼也思加毛布（我布）伎美末知我氐尓（アレヤシカモウキミマチカテニ）（然憶）

ヲと[illegible]

[illegible]楮種の[illegible]

[illegible]地のイナヲを[illegible]地[illegible]イナ

[illegible]（イノリヲ）[illegible]麻の義[illegible]

[illegible]麻を引と呼ぶ[illegible]

又續ぎ[illegible]の義なり　又[illegible]ヲ麻ヲンタラシなる石[illegible]ヲ[illegible]行り　水弥
[illegible]　又サウレ　又サレヤン
[illegible]　山地[illegible]国名ヲ[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　

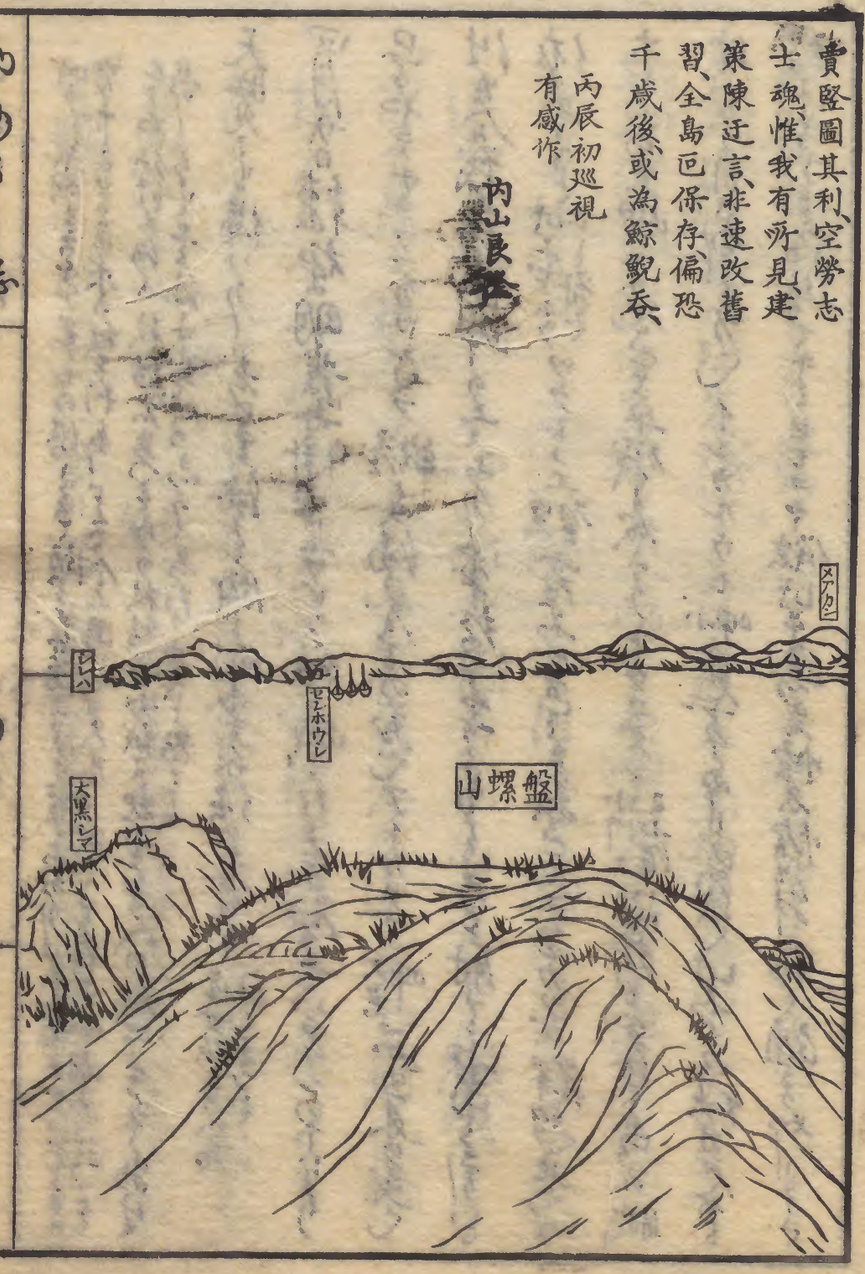
サン丸山ト云其巔區平ナル故ニ号シテ名ヲ義奥樞ノ義ト近ク竹澤ヲ防ギ其ヲ
治ヲ分ツ二箇ノ小河ヲ建ル盤螺山、夷言取魚樞之義、蓋謂山頂區平也、
其地臨熟消湾、西望阿漢舎利諸山、紫翠如
新涙、與波光映帯真勝也、初喜多野竹潭臨此地也、以私費多募夷民、
剪草莱闢榛蕪造磴道千餘級、以使登覽夷民等樂為之不日而成下畧
其眺望華の及ぶ所ハ西ハ余目ノ南ハ呂ノ中ヲ集ヨキイタプ迄ノ
百チロフ大沼モチロフ小沼二ツの沼ノ廣サ凡ソ舟ヲ以テ渡ル
ヲ平ラ産屋海ニレヤケ金ヲ金ヲ印クマキツ雨和岩ヲ岩ヲ印ハツヤウ樣ヲ印ヲ
望國尽ル所ノ所ニ山酒ヲ云ハ大ヲ平ヲ父サンケドモヲ高ヲ山ヲ然ル
所ノ所ヲ出ヲ印ヲ人ヲ生ヲ者ヲ出ヲ人ヲ生ヲ者ヲ出ヲ人ヲ生ヲ者ヲ出

蜻蜓洲盡處、孤島別
乾坤、天度雖稍異、可
以充北藩、環海魚鰕
富、連山草木蕃、竭此
山海利、要地足築墩、
毛人頗强健、茅屋自
成村、裸體棹小艇、不
敢畏寒喧、撫育得其
法、可以補兵屯、惜哉
季世弊、曾無一定論、

賣竪圖其利、空勞志
士魂、惟我有所見、建
策陳迂言、非速改舊
習、全島巨保存、偏恐
千歲後、或為鯨鯢吞、

丙辰初巡視
有感作

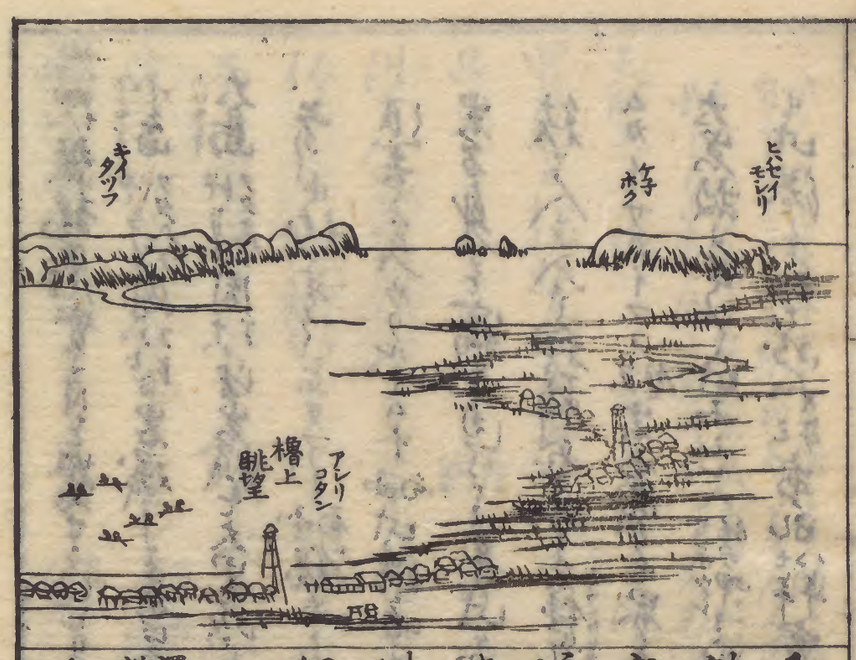
内山良[illegible]



ヒヅキニ云ヲアヤシレの濱と云て頗る巨濤の寄る所なり[illegible]
方千里ヨリコの木の杖を利用[illegible]
もそれは[illegible]の杖杉太樹[illegible]
長しもも是海の英雄の志[illegible]
天賢[illegible]も備り[illegible]

冒頭[illegible]日[illegible]年[illegible]明[illegible]年[illegible]レユマビラ岬城[illegible]バラサンのトけり
是やヲチョツフヨロシヨフ[illegible]の義[illegible]アイカップ大岬[illegible]の義[illegible]
此[illegible]戦の時[illegible]岬の上より軍場を[illegible]射[illegible]
依て[illegible]ツクシコエ[illegible]ツクシコエ[illegible]エニンカップ[illegible]
大[illegible]岬[illegible]トウコダン小川上[illegible]沿所[illegible]
中[illegible]インカルウシ岬[illegible]
故[illegible]

[illegible]の[illegible]ヒリカヲタ[illegible]海[illegible]
小面ホンモンヒリカヲタハナ[illegible]岩礁[illegible]
大島ホロモンヒリカヲタハナ[illegible]岩礁[illegible]大黒[illegible]
[illegible]依て[illegible]ユヲマイ小銅[illegible]
[illegible]ウリルイムイ西[illegible]
岩[illegible]身を[illegible]
[illegible]人を[illegible]
ムカイサカイマフ[illegible]岩面[illegible]
大岩故[illegible]ハ領の岬[illegible]
[illegible]港を[illegible]

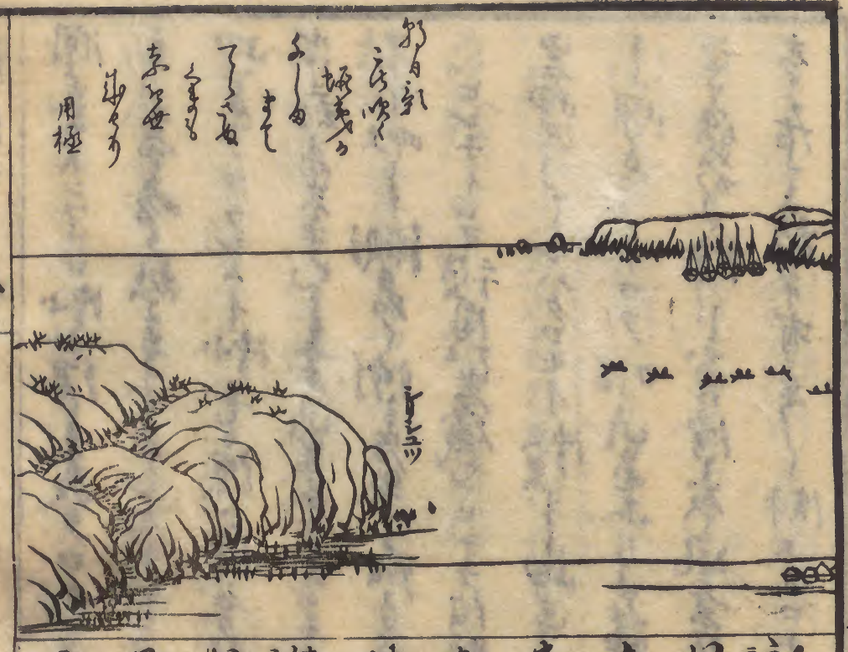


てフクシヤタウレ(ヒ)ヤ蒼葱(フクレヤタ)取多き地故に是土人の喰料(わるアイハカマ わるの行者みたく)表言まきキトこの山邊よりも沙金坑の同様跡ありて山を掘りたるかと思ふ(ヒ)ほど嶮しく崎嶇(タナヒ)の傷(ヒ)ありて山の形を臨窺(ヒ)する所の山なりと

相伝り「西人ハ山蒜野(ヒ)レク生レタリ是當

二其土地金銀鑛有モノ伝證ナリ野作雑記

譯説(ヒ)ヒ金(ヒ)ヒ地ヒ葱の好(ヒ)く出(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ佐渡の世二河内(ヒ)



新潟(ヒ)葱を賣(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ新潟(ヒ)ヒ根(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ沙金を見(ヒ)ヒ根の土を陶(ヒ)て大(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ葱の出(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ彼地ヒ洗(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ人ヒ(ヒ)ヒ流ヒ金子の多き地(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ彼地ヒ試ヒ陶(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ沙金ヒ(ヒ)ヒ(ヒ)ヒ(ヒ)

潮ヲ受ホンマヒロ湾小河ヲ義ヲロクン子ムイ湾大晴き湾しの義ヲ高岸壁
立ち高く嶋き坂ヲ半ばイレヨチセンベは磯ヲ半ばり軟くの白磯ヲ敢ヲ敢ヲ
岬ヲ高ヲカウシムイ小湾見も深き湾ある私夕陽のて南ヲ敢ヲ半ばく岬ヲ高ヲてり
ルワニ義ヲ高岸ヲ半ば山岩ヲ半ヲタン子クツ岩ヲ帝ヲて長く帝ヲ引ヲ帝ヲ前ヲ白ノツケ
アトイ岬大ヲ頭の如く沖ヲ岩ヲ半ヲ敢ヲ半ばく山ヲ波浪長一前ヲ
ヒン子イレヨ法ヲ二丁周ヲ丁岩儀ヒン子は脳腕山ヲ敢ヲ高ヲ敢ヲ半ばくなり
岩岬ヲ高ヲてレハクロモイ大岩湾ヲ半ば岬ヲ高ヲ浜モチロフ川ヲ上沿ヲ長ヲ番ヲ有り田
ヲ岬ヲ高ヲシチロフ沿口山高ヲ高ヲなく時ヲ南ヲ陸ヲ遠ヲ来ヲ冥ヲ山ヲ三川
ヲ生ヲ高ヲ敢ヲ海ヲとおい湾ヲ敢ヲ風ヲ来ヲ冥ヲ山ヲ和ヲ石ヲ荒ヲ高ヲ敢ヲ取ヲ茅ヲ小ヲ屋ヲ柴
ヲ高ヲ居ヲ故ヲ有ヲ半ばく半ば工オロチロフ上ヲ川ヲ有ヲ楡皮ヲ浸ヲ高ヲ敢ヲ半ばく岩ヲ岬ヲ

てワタラチロフ川ヲ口浜ヲ前ヲ岩機周ヲ二丁半ばヲ又岩壁ヲ有りヒバセイ川ヲ有り山川ヲ蜂
ヲ高き敢ヲ半ばく山ヲ高ヲ雪ヲ中ヲはトウキタイ沿源のヲ有り一月ヲ上ヲ位ヲ敢ヲ由ヲ有れ
滝沼ヲ有りて城新ヲ高ヲ有ヲ炭山ヲ云て命ヲ造ヲ材ヲ炭ヲ焼ヲ有り山中ヲ柳ヲ
ヲ雑木ヲ高ヲ蹈ヲ然ヲ射ヲ狼ヲ兎ヲ狸ヲ狐ヲ跳ヲ兎ヲ石ヲ虎ヲ黄ヲ柚アツホウ暑気ヲ病ヲ毒ヲ切ヲ家ヲ
ヲ家ヲ法ヲ方ヲ有ヲ有ヲ懐ヲ麝ヲ猫ヲ高ヲ由ヲ伝ヲ友人ヲ稽古ヲ御ヲ江ヲ利ヲ人ヲ城ヲ来ヲ竹
枝ヲ有ヲ霊猫直萬金牝牡遊水浮郎若得準尾晤歌鼓瑟琴学有ヲ法ヲ方
羊歯類クナレリの祖父岳ヲ伝ヲ号ヲ云ヲ来ヲ見ヲ高ヲ有ヲ海ヲ岳ヲ麝ヲ蕨ヲ
ヲ高ヲ大サ笠ヲ家ヲの如ヲ一ヲ中ヲ有ヲ蕨ヲ氣ヲ毛ヲ有ヲ高ヲ有ヲ敢ヲ部ヲ如ヲ何
ヲ麝ヲ蕨ヲ恵ヲ高ヲ人ヲ皆ヲ武ヲ獣ヲ捕ヲて大ヲ力ヲ勇ヲ人ヲ敢ヲ探ヲ求ヲ高ヲ蕨ヲ
ヲ高ヲ有ヲ高ヲ高ヲ一ヲ頭ヲ高ヲ得ヲ毛ヲ蕨ヲ竹ヲ潭ヲ長ヲ金ヲ毛ヲて山ヲ人ヲ探ヲ求ヲ高ヲ敢ヲ日

[illegible]獸[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

花の香のあるものを首よりかけて松の葉をもつて拂ふ

エモコモイ 周三 ナヨテ 芽は高さ一尺余り陸後さ成り第メヲクル大を岩 テモイ 三岩

少く高くてケ子ホク 大岩 成 依て此高をケ子ホクと云て赤楊多き故号して

ブレワタラ 周 ニテ 山岩とケ子ホクの間城脇入るや此沼内に成さり多

キイタップ 周 ニテ 山上二て 高上五十 巾廣二ケ所 岩 義上遍平にて出萩多と云義又狩場

故に牛有て以て 稲 ハエキレヤニ 大岩 成 号と云 南に出てトウブツ 南方 小湾 レレト工 岬東

ヲクレ 少分 番 多ら 山辺に沿て アレリコタンと対して船渡成し事有海中

エタレベエレヨ 岩 成 海濱 磯の義 グヤ 岩 成 多ら

初て和人に入て 左ホキシャリベツ 太キイタップ 濱 形東に出て 其中に沿 ホキシャリヘツ 口 始て 大多

貝 ホッキ 号 基 多 有故号くるてヲタノレケ 砂濱 中義 岩 アレリコダン

と云 巾廣四拾 板 長 拾 夫 巾廣十三 長十五 板一拾 是 特 拾 不 義 無 岩 義 違 り 先 岩 科 の 多 根 ハ

諸 モロ 魚 不 の 多 り 一 時 彼 地 の 多 初 て 義 て 拾 多 て 船 接 も 一 中 て 近

此 子 モロの 枝 廣 船 とキイタップ 下 り 神 只 願 多 岩 と 今 多 帳

面 を 貯 る 者 中 山 を 跳 鯨 鯨 コマイ 多 中 極 人 居 サル 夫 人 を 多 地

形 南 面 表 濱 り 義 濱 地 と 多 面 上 平 山 推 本 を 高 濱 多 ア 鯨 多 岩

一 つ 拾 り 荒 き 砂 濱 と 多 い て 本 の 高 根 を 高 く 手 成 面 浪

廿 百 山 地 高 森 深 人 の 多 と 変 化 と 毋 を 成 て キイタップ 下 神 多 今 多 ア

マイ カラフト キウリ 夫 て フウラチ エッフ 山 上 て アラコ 工 の 大 濱 り と 和 て 綱

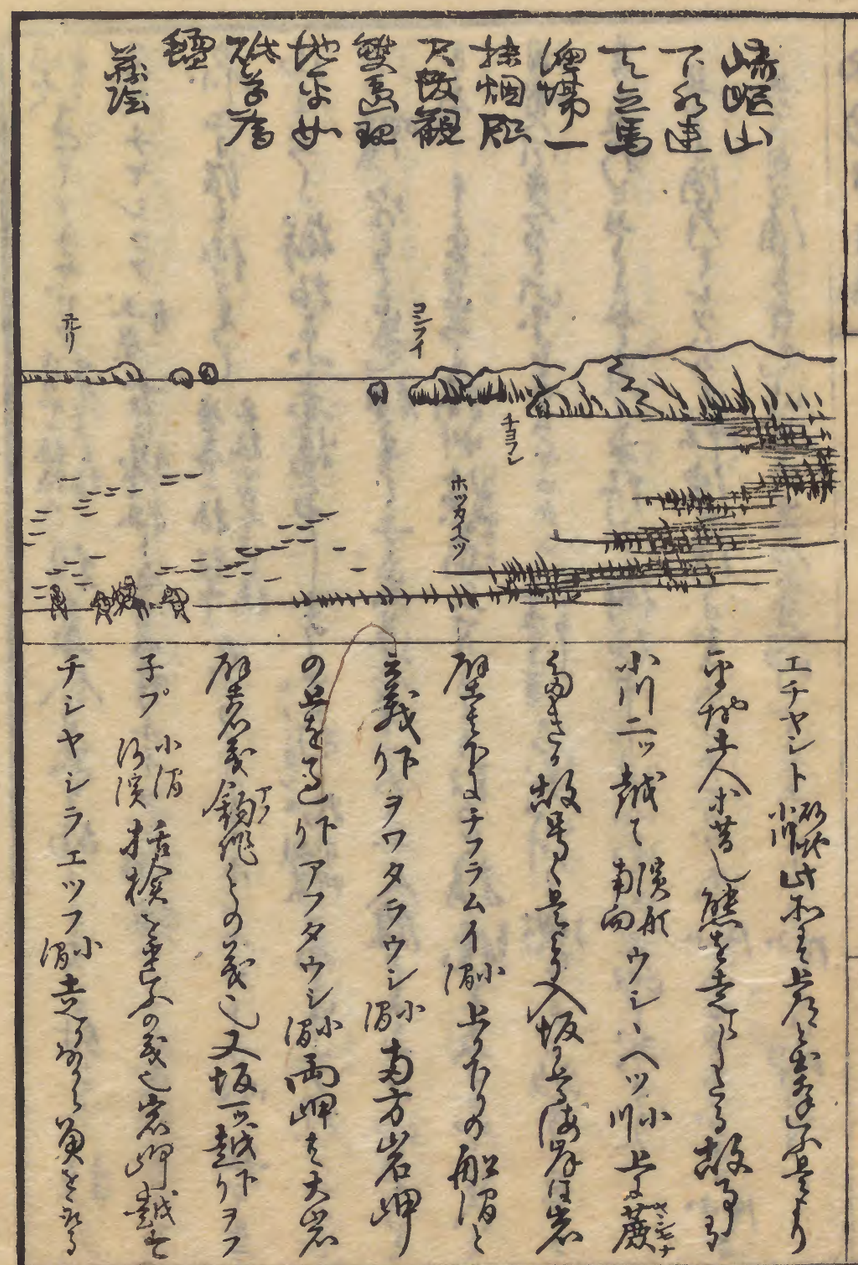
と 夷 人 り 中 よ アイノクリベカ イトピン子 チロシノイベ 岩 と 夷 多 く 成 り 事

海 岸 よ 往 と の 濱 る 竹 濱 長 岩 義 て 磯 石 菜 多 人 竹 用 と 和 船 乗 の 多

ヘ ヘ

勝手ニまつ異ニ申別ても異ニ毋未沼蘭ニ笑ふ事ハエトピリカ（鼻美）
あ嘗ニ（ヤエエトピリカ）大きさ鴨の如く色黑く背赤く嘴紫紅色ニ（ラン子チカプ）大島住ス所
背ハ白ちらく濃紫紅色ニ
ヲ除ク島ニハ特有 キウリ、ヲレタラ、ツリヤ、フーラットリ、カ、キヨ、フウセケリ、
コロカツクレ、ハリケウ、アチユイチカス、ワウス、シラルツ、イツラ、
ヒレカ、イトクトキ、アイスヒラリ、ヲマシルイチリ、ウエレユツフ、ハケクレチ、ウエチリラキ、
ヌツフカチレフ、ホツキウレ、ウツセトイタ、ヲツヒケヒケ、ヲルレアツケウ、ハイトツフ、テヲリ、
ヘカチ、リ、ヤウレタラ、ホヌチリレラチキ、ツラ、ま、陸ニ異ニフウレチカプ（赤鳥）大さ鶏の如く
フレシヤムチリ、ホルチリ、ヲケウラ、コベツチヤ、
當ま、少異ニ紛ふ者ハ丸ニ
猟を伝ニ和人ハ丸ニ
サルマレコ 是和人ハ
ホンく金ニ
アツケレイ、トコ
ホンく金ニ
カ子タ、キ 和人ハ
叮ハ
レイレヤリタマヤリ
大サ鶏の如く
除
寄合申中上ハ異ニ
中上ハ異ニ
ハ
方陸ニ
馬ニ
足ニ
ス
廿二日宿ニ移ル 濕沉世界ニ
沉濕ナヨレリレユツ岬
九月ニ山上ニ越ニ
依テ
ヲ下ヲツベキレユイ岬
仕ス地ニ
ニ
人ハ陸ル
由ニ
ノコヘ
リヘツ

アチヤビラ 岩や二株板ニ二株茅ニ二株 往古人ハ
ニ
故ニ
ニテ チヤレコツ 土墨有 古の塚跡ニ
ルイラン坂ニ
義ニ
ホロト
ウ小上ニ沼ニ依ニ
岩ニ二株板ニ
土株茅ニ二株
ニ
ホンホロトウ小越ニ
山ニ上ニ
獺板ニ
赤楊ニ
エノミタンニ
般若
板ニ
ブユウン
チレ大岩岬
宮ニ
岩ニ依ニ
上ニ岩蓮華の大さ一人除の如ハ
ハ実ニ
横州 猿蘭の二寸計の如ハ
ニ
目貫ニ岩ニ
ウラヤコタン
長ニ
名義川ニ
樂ニ
ニ
獺板ニ
山下ニ
岡ニ
ニ
ニ



嶋昭山
下ル連
ヒ之馬
煙場一
接烟所
天敵觀
雙馬觀
地よゆ
ゆ
ゆ
鍾
蒙法

エチヤレト小川ハ山ハ不ル岸ヒ之ヒ之ヒ之ヒ之ヒ之より
平地ヒ之ヒ之ヒ之ヒ之ヒ之

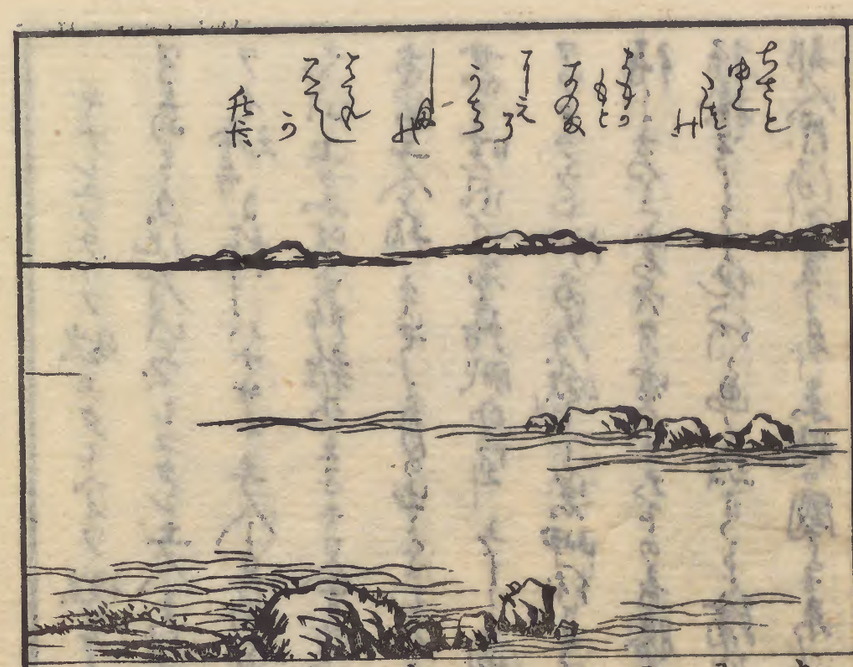
天借巨霊手
槌開一面窓試
望千里外駭浪
雲濤
松園道人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水谷（ホキリ）ヨリ（アナヲ）ホロノツ岬ヘ廻リ上ル岬ノ上ヲ越シ茅屋
此ホロノツ岬ヘ廻リ上ル岬ノ上ヲ越コンブウレムイ
茅屋板屋ヲ
此所ヨリ帰帆ヲ張リ沖ヲ漕ヒ演中ヲタノレケ川ノ内ヲ漕ヒテ坂
の下ヨリ標柱（アッケレニナ）ヲ二十六間チョブレ云上ヲ注ク中一度の五石
ヲ飛ハシテ立ツ云ヒ又ハ子モロ頃ヨリ演所東南ノ
岬ヲ越シ演ヨツカエヘツ小地ヲ背負ハ帆ヲ半ヲヲホサツナイ小注ク社の御中ヲ流ル
ヲリ坂ヲ此上ヲ喰土（ナエトイ）ヲ上ル
今ヨリ九十半余
経尾子モロ云所ヘ行
もゝしきなつ市姫（ハナ）ハナサキ茅屋板屋見ハ鼻岬ヲ加所南面ヲ岬ヲチヨフレヲ一度ヲ服前ヲ
二島（ユルリ周ヨリモユルリ周ヨリ）ヲ海上二里半ヲ見ヲ周ヨリ岩壁船泊ヲ
キナレユラマフ磯エタレヘイソ磯ヲ何ヲ土人小歌ノ漁場ヲ
ヲ高ヲ文化度此ヲ
ヲイ元（今ヨリ）ヨ梅ハナサキ土人ヲ引取漁場ヲ
ヒ此上ノ小ヲ所雑本ヲ子モロ面所陸地或ハ所ヲ金ヲ金所
蝦夷土人ヲ頼ヲ
岩ノ暗風ノ岩場所
ヲワタラウレ小湾ヲ岬ヲ岬ヲ大成ヲ湾ヲ
侍ヲ高ヲ岩穴ヲ家ヲ下ノ高勝ヲ
拓撫ヲ地何ヲ画ヲ坂ヲ
部ノ際ヲ家ヲ未ヲ未性ノ國ヲ



ウ沼細ク尖リ沼ノ末ヲ子トウベツ川上ル沼有トベトマイ川元ハ二ツカカヘマ
ヲ上ル岬トトモシリウレツ岬ヲ
トモシリ大周十五丈小周名義ニツ面ヲ云
ナテ海上ハ
義トウフモシリノ約ル
山ヲ風強ク故ニ樹木ハ生成シ
匍匐シテ我等ノ前ニ剪髮ヨカ
甚危ク一ポフケセンベツ湾ハ暖温
ノ流ヲ故ニ多クトラケ子ベツ川ニ
ヲヒ子ヘツ川シケウレツ川ハ
ハ人ヲ

の為ニ上リ故ニ早ク上ル土壘ヲ
陶器ヲ出ス花石ヲ出ス
ルベケウニ岬
鯨ノ骨アリ
ヲフラリムイ湾息
ノ有湾ニ
チヤレコツ土壘ヲ岬ヨ
ヲヤコツ土壘ヲ
イソ子ムシリ
ハボマイムシリ
海ノ
蕨ヲ
マカヨレト岬
コヨマイ平岩

二島（コヨマイモレリ　カバフケモレリ　俗上ニ云フ　カバフケ）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

仮を炊き給ふ潮辛き故に咽喉渇きて水を多く甚に用ひて
沿岸凡そ五六丁ほどサキヘンベツ方レベンベツ左ハ二ツにサキヘンベツは深く入レベン
ベツは能く文治中切開小貝多く居て貝を採り
明日出でき夜の一夜も待つの間くるしやあれのこらせれ
申さるべき待つの申さまれさまれ落うさ夜岩やくせん
昔小風強く仮を炊くまま岩を見て潮満て何とも走れ新仕
参り仮を炊きまま〻おなじチャレコツ城下コンブウレムイ湾ヲベ
労子ウレ小山不昔人家市時賣鼻渾沸り由て生くとは多
山を新深き故に衣彼身に附て甚歩行悪き故に欲コロクニバハ葉を被る酸シュ
摸葉を腰に結ひ居る不見て為あと称ひ右坂牙に附き貝殻より数様

維華維苦嘗舌嘗來
乃獲異卉味美於回
衆救饑餓其功偉哉
楮鞭上草汝何人斯

甕江川田剛題

敬齋精義書

も浴せん髪を切れ被れとて松板(マツイタ)に木葉を肩隅に使の板を怜
者化物の如しと土人笑ひ朝夕自ら(ヒトリ)の記念(カタミ)成とて冊の内に自画(ニツキ)
をなしそれ子フルニ板式不毎朝就て用ひ香り有る方をシヤムコタン平板ホンヲニ
ヨフ板ヲニヨフ円長を服し空腹(ハラ)に飲湯(カラ)ふこと心附て佐の國松石(トイシ)
別石ところ〻石の色にて席(クツト)の藁(ワラ)を重て皮を剥き内(ハ子イシ)又稼(イタトリ)と搗て漬て
食を思ひ出し此丹を煮まく味を入れて是を折て咬て頗る後味
まし酸味を湯にて凌て宜し土人此藁の如きを咬て牛と始て
知るとなり此藁をクツタラアマ(虎杖米)と云酸模(ミヤク)をシユナバアマ〻と云て飯(ハキ)
に余(ユフバ)タ張シコツ丹と云て方(カ)土人此の驗(ヒ)して雀の咬
物成と行て糧を求めこと依て雀(飯鳥)をアマ〻チカブとて〻をチヤシコツ

悔此式に土墨と称て土器を造てラホキ小沢臓腑の下に義あり何故
と問て曰ノツカマフ小岬岬方に此式を造人家多く有り少寛
政前の時分今の子モロの如く極りなくとの子モロ土人と古帳に
に湯方を曰ノツカヨマフノツ小岬と云てイレヤウ二島岩
磯か敷に長くシキムイ小漁を宜敷為に上より長く爰て土人
附板を以て造りビウチヤラセ小流川放に長くコロクニウレムイ小歌を
為て造の義ホンコダン村ヨン子コダン村大村小村の跡前カサ子カ
シユマ小島に乗て沖中に伝て突出し沙平の時に乗
の上を底無別越て行て平に成石を以シユマリウカ岩に上て岩場の義
に上て平に人伝て底の舟の如き物を用ひ

神著モイハシユイ
皮を剝て内かわを見る越（ヒヤツナキ）錄等繪目之須史
のごとく空成て木の如し土人の語に是を出る物と沙箸生于海岸春吐苗其
心若骨白而且勁可爲酒籌凡欲採者輕步向前及手按之不然聞行
者聲遽入沙中堀尋之終不可得也嶺表錄異
入れば沙中に是を亡羊出年先生百品考中に沙箸嶺表錄異越王竹南方艸木狀越
王筯竹譜詳錄沙筯福建通志塗釵同字の文を擧て博識を以て是此
地不產竹故に竹を以て筯を見るなり搖ゝ波に浮び沒する物
沙筯東の名有り是を相傳て此草を南人毒藥ようの又籍を制する顏
南に居て是を以てホロシユナハウシ小湾シユナハウシムイ小湾共に美稱
根あり紅色にして ペトルホ小ピンケウシムイ小湾崖陳と義此岬を指す

ホロモシリ 西上本ノ周ル丁 今天長命の上に毎年社首の内大船繫り泊まるし
子モロ會所に出先あり酒を呑て汚穢の多きを祝て
卯年に當る南部伊勢稼の者下り出人を金吹より是一出を殺す
ものを乞ひて是に赤綿を係くまた公方一回に首長陳平宅に出人ドン
ドンと云を呼此者は戒斧を以て一回の赤一樽の
酒を與へ樽を打きて見サイナ〳〵戒斧ヨシサイナと雜ようやテンキを烏
帽子ようの金の羽織を乞て殺の人れ殺ようの千鮭を抱へ鈎羊
肩（ボウシ）に斜に持て其の所作仕斧を鈎羊と稱ようの毎盜賊する

品〳〵の子モロ浦ようの入る演舞西向波に振り搖て
極て表情ようの義を子モロヘツ小此岬を演舞ようの
ホロモシリ 西上本ノ周ル丁 今天長命の上に毎年社首の内大船繫り泊まるし
子モロ會所に出先あり酒を呑て汚穢の多きを祝て
卯年に當る南部伊勢稼の者下り出人を金吹より是一出を殺す
ものを乞ひて是に赤綿を係くまた公方一回に首長陳平宅に出人ドン
ドンと云を呼此者は戒斧を以て一回の赤一樽の
酒を與へ樽を打きて見サイナ〳〵戒斧ヨシサイナと雜ようやテンキを烏
帽子ようの金の羽織を乞て殺の人れ殺ようの千鮭を抱へ鈎羊
肩（ボウシ）に斜に持て其の所作仕斧を鈎羊と稱ようの毎盜賊する

[illegible]

納紗市日誌

竹潭喜多野氏志古覃日記

壬戌臘月余與塾生日課記事一則。一日見喜多野省吾國字志古覃紀行於几上。乃翻譯以示諸子。使其取法焉云。毅堂學人宣識

志古覃。夷言極處村也。以其在蝦夷極東海中。故名。先是松前侯移土人于根室港之花碕。為空島數十年。今茲安政丙辰。余祗役在悪消。秋七月得報差巡視焉。蓋　官欲再置漁戸也。初四日抵根室艤舟。酋長烏啞差比原志古覃人。乃命引導。

初五日平明西南風開帆。用夷禮。立木幣于鷄首。禱海路安。

全。已時歷納紗布岬。東踔四里。抵水晶島。重霧四塞。咫尺不辯。乃鎖船巖間登岸。檢時規僅過午。

初六日用寅卯針揚帆。雲霧忽駁忽合。變態無極。抵悉勒通島之登根別畧。崖土有赤有白有紺有黑。斑爛作纈紋。差午出大洋。南風大作。船傾側簸蕩。衆皆眩暈。嘔噦狼藉。倚舷而望。四面浩淼。無畧輿可泊。萍飄蓬轉。一任其所之。忽見一島千艮位。轉柁赴之。巨巖盤薄于頹波怒濤之間。傍多礁石。一誤則船粉碎矣。衆相顧失色。入夜風少定。展帆東馳。初更達多羅久島。繫舟登岸。濕霧如雨。燭火屢滅。乃燒枯枝敗葉取明。

初七日平旦與松岡德松村精。巡視島中。無大樹。岸皆巉嵒。往〻帶青綠色。光瑩如孔雀石然。

初八日暴雨驟至。避于巖穴。寒甚。御綿衣。舟中水且盡。派人覓泉。不得。乃掘地出水。煤色。以巾漉之。有臭氣。

初九日微雨。銃海獺長丈餘。未及收。飛濤大至。忽盪去。可惜。

際昏。德獲鷲一隻而歸。

初十日颶風。夜半收。怒纖月在。空明。日天氣可知。

十一日開霽。解纜。南風側帆東踔。望洋面一白如雪。俄頃潮來。其鳴如雷。其疾如馬。狂吼奔騰。襄駕蓬脊。蓬雷如瀑。船傾欹將危。舟人惶怠失措。德曰潮急如此。請一還于多羅久候

順風。余曰。何日無潮且海路既過半今而回帆是廢前功也。舟人奮激竭死力劣能過之日晡始見志古覃島之佐喜宇遠別嶴樹木可辯既到嶴口濤高不可得通傍島南入阿摩麻比灣抛錨岸石磊礌皆欲動諦視則水豹群聚也其啼如赤子又多雙手獲百餘尾。

十二日出灣過麻宇多阿比羅烏度流諸岬此間平岡漫嶺無大樹抵佐喜宇遠別島形一變峯巒突起瀕海怪石攢簇或蹲如虎或睨如獅子或如人立或如渴牛怒猊或如鶴啄鶻落龜伏蛇盤千狀萬態不能盡述轉入敏寧志豫灣一山皆鳳尾松懸泉數條隱見樹間白光閃〻奪人目驚鵰海鶯蒔見人驚起回翔空中不知幾千數歷遠羅勘遍泊阿奈麻刀灣。

十二日弗且傍島北歷麻多古覃夷言冬村也抵射古覃夷言夏村也舍舟登陸有草類燈心艸細毳密布如鋪青氈多古墳涵酒祭之文化中有太郎者以勇力畏服土人自立為酋長更有并吞根室惡消之意惡消酋長伊古登比有膽畧欲除之乘小舟來直過其廬太郎素相識具酒饗之伊古登比始入室揷匕首于簷端酒既酣急起執匕首刺之立斃云十四日平明巡視有聲震地如大砲連發衆驚以為洋舶進嶴令人見之山崖崩數十丈矣大樹皆合抱撑天蔽日其下

敗葉重疊。行葉上不知窮隆。一失足幾墜深谷。饒狐與他種。
奠異。面短身羸。其毛或黃赤或黑白有二色者有三色者純
黑者映日為金色尤美夷人與滿洲人交易以此為上貨王
士慎池北偶談云玄狐惟王侯以上始得服則其貴可知矣
十五日發射古覃。歷度加理宇多。知呂毛志利。惠麻莫古通
計。久伊保。泊古覃計志奥。是為島南邊。較北邊覺少暖。是夜
有火熒〻起海中散作數百星如近如遠至曉滅或云大魚
目或云鹽精未知孰是
十六日歷登伊度古麻〻比。還佐喜宇遠別奥。周迴凡三十
四里。大小二十四灣。皆可泊可漁。事既竣。約明日回帆。

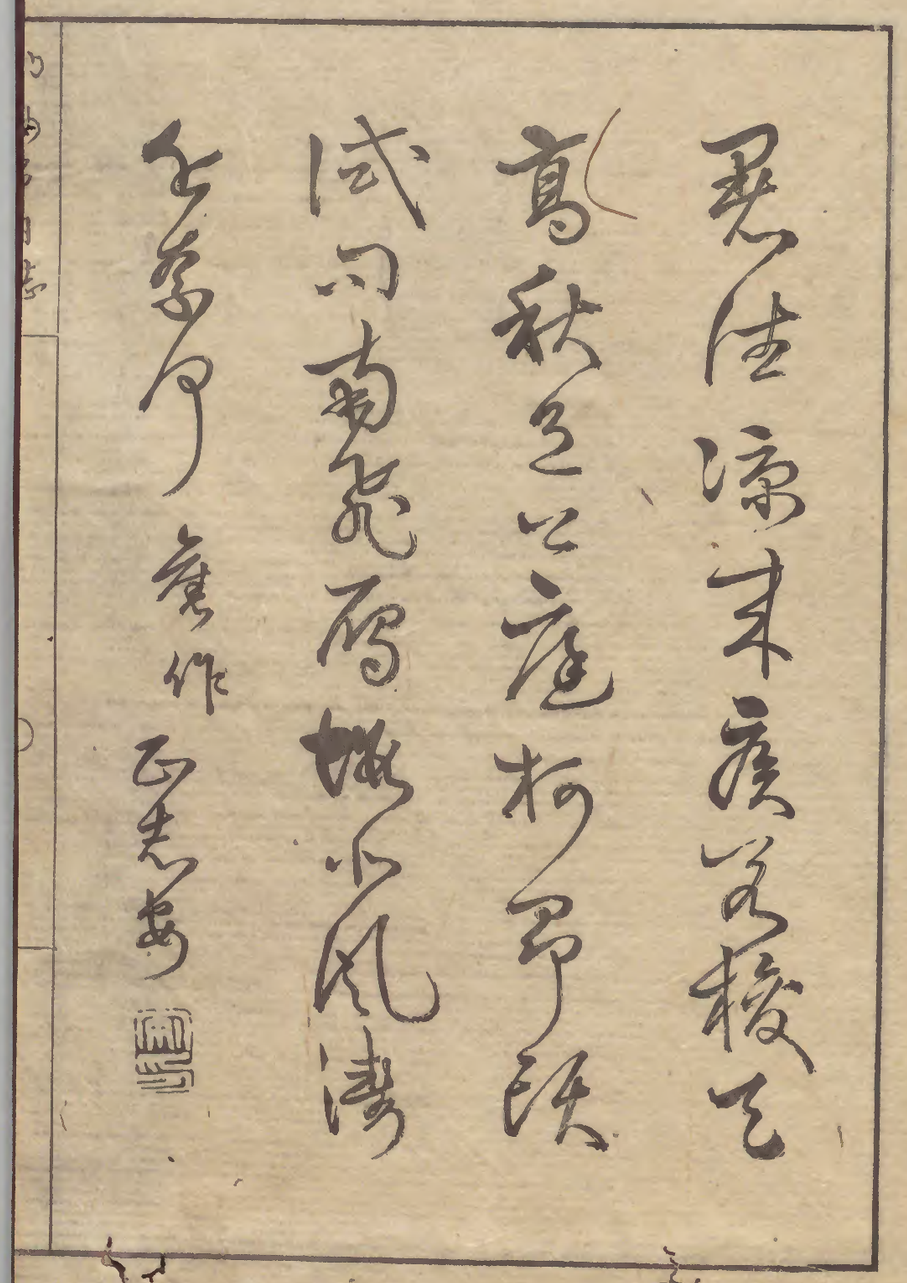
十七日揚帆向西。回視志姑覃既沒高濤間。
十八日早船在多羅久島東北五里便風駕駛儇甚。
十九日開霽觀日出海水俱紅未時風恬波平船膠滯不前。
黃昏便風復作。挂帆三分西馳。
廿日船為潮所流十里許差午風轉東南。舟人忽報曰。距根
室僅三里矣。舉舟懽抃。食頃入港。此役海路嶮惡。將葬魚腹
者屢矣。而同行十數人無一損失。豈非天幸乎。歷程往還凡
百四里。歷日凡十有六。

隨境記實似易而難。架空奚筆似難而易。何也。奚筆者
可以逞巧。而記實者動輒流平凡。況他人所記。我從而

譯之。華〻顧原文。一字不可移動。則其難可知。而此篇行文流暢。絶無拘束態。可謂能手矣。五代史四夷傳有錄客話以成一篇好文章者。此篇或庶幾焉。

癸亥人日川田剛妄評

政府文庫



国立公文書館
National Archives of Japan